

# デーヴォ ガイド



**2025.3.17-23**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

LTG Guide

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship



1:20 イスラエルの長子ルベンの子孫は、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、一人ひとり名を数えられた、二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:21 このルベン部族で登録された者は、四万六千五百人であった。  
 1:22 シメオンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、一人ひとり名を数えられた、二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:23 このシメオン部族で登録された者は、五万九千三百人であった。  
 1:24 ガドの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:25 このガド部族で登録された者は、四万五千六百五十人であった。  
 1:26 ユダの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:27 このユダ部族で登録された者は、七万四千六百人であった。  
 1:28 イッサカルの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:29 このイッサカル部族で登録された者は、五万四千四百人であった。  
 1:30 ゼブルンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることが

きる者すべて。  
 1:31 このゼブルン部族で登録された者は、五万七千四百人であった。  
 1:32 ヨセフの子孫では、エフライムの子孫で、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:33 このエフライム部族で登録された者は、四万五百人であった。  
 1:34 マナセの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:35 このマナセ部族で登録された者は、三万二千二百人であった。  
 1:36 ベニヤミンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:37 このベニヤミン部族で登録された者は、三万五千四百人であった。  
 1:38 ダンの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:39 このダン部族で登録された者は、六万二千七百人であった。  
 1:40 アシエルの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者たちで、名を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:41 このアシエル部族で登録された者は、四万一千五百人であった。  
 1:42 ナフタリの子孫では、氏族ごと、一族ごとに分かれたその家系に属する者で、名

を数えられた二十歳以上で戦に出ることができる者すべて。  
 1:43 このナフタリ部族で登録された者は、五万三千四百人であった。  
 1:44 以上がモーセとアロン、またイスラエルの族長たちが登録した者たちである。この族長たち十二人は、それぞれ、自分の一族を代表していた。  
 1:45 一族ごとに登録された二十歳以上のイスラエルの子らで、イスラエルで戦に出ることができる者すべて、  
 1:46 登録された者の総数は、六十万三千五百五十人であった。

全てのクリスチャンは主に愛されていますし、等しく高価で尊い存在です。しかし一方で、「軍務につくことのできる」人は全員ではありません。その思いがあるか、覚悟があるか、主によって訓練をされているかが問われます。現代においても軍務につくように、つまり主に役に立つ者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 18日 火曜

### 民数



1:47 しかしレビ人は、彼らとともに父祖の部族ごとに登録されることはなかった。

1:48 【主】はモーセに告げられた。

1:49 「レビ部族だけは、ほかのイスラエルの子らとともに登録してはならない。また、その頭数を調べてはならない。

1:50 あなたは、レビ人に、あかしの幕屋とそのすべての用具、およびすべてそれに付属するものを管理させよ。彼らは幕屋とそのすべての用具を運び、これに仕え、幕屋の周りに宿営しなければならない。

1:51 幕屋が進むときはレビ人がそれを取り外し、幕屋が張られるときはレビ人がこれを組み立てなければならない。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。

1:52 イスラエルの子らは、軍団ごとに、それぞれ自分の宿営、自分の旗のもとに天幕を張るが、

1:53 レビ人は、あかしの幕屋の周りに宿営しなければならない。わたしの怒りがイスラエルの会衆の上に臨むことがあってはならない。レビ人はあかしの幕屋に関わる任務に当たる。」

1:54 イスラエルの子らは、このようにし、すべて【主】がモーセに命じられたとおりに行った。

レビ人も軍務につくなら、もっと戦力は強められたでしょう。しかし、主はその信仰を何よりも大切になさいます。主を礼拝することをおろそかにするなら、動悸がずれてしまい、一致がなくなります。どんなに人数が多くても弱体化してしまうのです。それよりも戦う意味そのものがなくなってしまいます。

主との交わりがなく、みこころに従うこともなく

努力する人生も、これと同じです。

主がレビ人とその礼拝の働きを不可侵としたように、私たちの礼拝とデポジションも不可侵としましょう。「主が命じたとおりに」行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 19日 水曜

### 民数



- 2:1 【主】はモーセとアロンに告げられた。  
2:2 「イスラエルの子らは、それぞれ自分たちの旗のもと、自分の一族の旗じるしのもとに宿営しなければならぬ。会見の天幕の周りに、距離をおいて宿営しなければならぬ。  
2:3 前方、すなわち東側に宿営する者は、軍団ごとのユダの宿営の旗の者でなければならぬ。ユダ族の族長はアミナダブの子ナフションである。  
2:4 彼の軍団は、登録された者が七万四千六百人である。  
2:5 その隣に宿営するのはイッサカル部族であり、イッサカル族の族長はツアルの子ネタンエルである。  
2:6 彼の軍団は、登録された者が五万四千四百人である。  
2:7 その次はゼブルン部族で、ゼブルン族の族長はヘロンの子エリアブである。  
2:8 彼の軍団は、登録された者が五万七千四百人である。  
2:9 ユダの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十八万六千四百人。彼らが先頭を進まなければならない。  
2:10 南側は、軍団ごとのルベンの宿営の旗の者たちである。ルベン族の族長はシェデウルの子エリツルである。  
2:11 彼の軍団は、登録された者が四万六千五百人である。  
2:12 その隣に宿営するのはシメオン部族で、シメオン族の族長はツリシャダイの子シェルミエルである。  
2:13 彼の軍団は、登録された者が五万九千三百人である。

- 2:14 その次はガド部族で、ガド族の族長はデウエルの子エルヤサフである。  
2:15 彼の軍団は、登録された者が四万五千六百五十人である。  
2:16 ルベンの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十五万一千四百五十人。彼らは二番目に進まなければならない。  
2:17 次に会見の天幕、すなわちレビ人の宿営が、これらの宿営の中央にあって進まなければならない。宿営する場合と同じように、彼らはそれぞれ自分の場に就いて、自分の旗に従って進まなければならない。  
2:18 西側は、軍団ごとのエフライムの宿営の旗の者たちである。エフライム族の族長はアミフデの子エリシャマである。  
2:19 彼の軍団は、登録された者が四万五千人である。  
2:20 その隣はマナセ部族で、マナセ族の族長はペダツルの子ガムリエルである。  
2:21 彼の軍団は、登録された者が三万二千二百人である。  
2:22 その次はベニヤミン部族で、ベニヤミン族の族長はギデオニの子アビダンである。  
2:23 彼の軍団は、登録された者が三万五千四百人である。  
2:24 エフライムの宿営に属し、その軍団ごとに登録された者の総数は、十万八千百人。彼らは三番目に進まなければならない。  
2:25 北側は、軍団ごとのダンの宿営の旗の者たちである。ダン族の族長はアミシャダイの子アヒエゼルである。  
2:26 彼の軍団は、登録された者が六万二千七百人である。  
2:27 その隣に宿営するのはアシェル部族で、

- アシェル族の族長はオクランの子パグイエルである。  
2:28 彼の軍団は、登録された者が四万一千五百人である。  
2:29 その次はナフタリ部族で、ナフタリ族の族長はエナンの子アヒラである。  
2:30 彼の軍団は、登録された者が五万三千四百人である。  
2:31 ダンの宿営に属する、登録された者の総数は、十五万七千六百人。彼らはその旗に従って、最後に進まなければならない。」  
2:32 以上が、イスラエルの子らで、その一族ごとに登録された者たちであり、全宿営の軍団ごとに登録された者の総数は、六十万三千五百五十人であった。  
2:33 しかしレビ人は、【主】がモーセに命じられたように、ほかのイスラエルの子らとともに登録されることはなかった。  
2:34 イスラエルの子らは、すべて【主】がモーセに命じられたとおりに行き、それぞれの旗ごとに宿営し、それぞれその氏族ごと、一族ごとに進んで行った。

秩序があることで一致があります。それは主からの命令によります。ですから、勝利や成功を求めるから主に聞くことです。それを分かち合いましょう。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？

## 20日 木曜

### 民数



3:1 これは、【主】がシナイ山でモーセと語られたときの、アロンとモーセの系図である。

3:2 アロンの息子たちの名は、長子ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマル。

3:3 これらはアロンの息子たちの名で、彼らは油注がれて祭司職に任じられた祭司であった。

3:4 ナダブとアビフは、シナイの荒野で

【主】の前に異なる火を献げたときに、【主】の前で死んだ。彼らには子がいなかった。それでエルアザルとイタマルが父アロンの生存中から祭司として仕えた。

3:5 【主】はモーセに告げられた。

3:6 「レビ部族を進み出させ、彼らを祭司アロンに付き添わせて、仕えさせよ。

3:7 彼らは会見の天幕の前で、アロンに関わる任務と全会衆に関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。

3:8 彼らは会見の天幕のすべての用具を守り、またイスラエルの子らに関わる任務に当たり、幕屋の奉仕をしなければならない。

3:9 あなたは、レビ人をアロンとその子らに付けなさい。彼らはイスラエルの子らの中から、正式にアロンに付けられた者たちである。

3:10 あなたは、アロンとその子らを任命して、その祭司の職を守らせなければならない。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。」

3:11 【主】はモーセに告げられた。

3:12 「見よ。わたしは、イスラエルの子らのうちで最初に胎を開いたすべての長子の代わりに、イスラエルの子らの中からレビ人を取

ることにした。レビ人はわたしのものとなる。

3:13 長子はすべて、わたしのものだからである。エジプトの地でわたしがすべての長子を打った日に、わたしは、人から家畜に至るまで、イスラエルのうちのすべての長子をわたしのものとして聖別した。彼らはわたしのものである。わたしは【主】である。」

民数記においては戦いのための実践的備えが主要課題です。しかし、だからといって主の命令や礼拝をおろそかにしてよいというではありません。私たちは時として、臨戦態勢すなわち危急のときは、礼拝など日常のことを後回しにしたり不十分でもしかたがないと思いがちです。しかしそのようなときでも主との関係は最優先なのです。

ルターは忙しいときほど長く祈ったと伝えられています。急がしいと目的を見失ったり、無駄なことをしてしまったり、動機がずれてもきづかなかつたりします。現代人は自分は忙しいという言葉がサタンに用いられているのです。忙しい人は、それゆえに神のことはシャットアウトしていないか、考えてみましょう。また自分は臨戦態勢なのだというような緊張にある人も、それゆえに主をないがしろにしていないか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





3:14 【主】はシナイの荒野でモーセに告げられた。

3:15 「レビ族をその一族ごと、氏族ごとに登録せよ。あなたは生後一か月以上のすべての男子を登録しなければならない。」

3:16 そこでモーセは、【主】の命により、命じられたとおりに彼らを登録した。

3:17 レビ族の名は次のとおりである。ゲルシオン、ケハテ、メラリ。

3:18 ゲルシオン族の諸氏族の名は次のとおりである。リブニとシムイ。

3:19 ケハテ族の諸氏族は、それぞれ、アムラムとイツハル、ヘブロンとウジエル。

3:20 メラリ族の諸氏族は、それぞれ、マフリとムシ。これらが父祖の家ごとのレビ人の諸氏族である。

3:21 リブニ族とシムイ族はゲルシオンに属し、これらがゲルシオン人諸氏族であった。

3:22 数を数えて登録された者は、一か月以上のすべての男子であり、この登録された者は、七千五百人であった。

3:23 ゲルシオン人諸氏族は、幕屋のうしろ、西側に宿営することになっていた。

3:24 ゲルシオン人の一族の長は、ラエルの子エルヤサフであった。

3:25 会見の天幕でのゲルシオン族の任務は、幕屋すなわち天幕と、その覆い、会見の天幕の入り口の垂れ幕、

3:26 庭の掛け幕、それに幕屋と祭壇の周りを取り巻く庭の入り口の垂れ幕およびそのひも——そしてそれに関わるすべての奉仕であった。

3:27 アムラム族、イツハル族、ヘブロン族、

ウジエル族はケハテに属し、これらがケハテ人諸氏族であった。

3:28 これらの一か月以上のすべての男子を数えると、八千六百人であった。彼らが聖所の任務に当たる者たちである。

3:29 ケハテ人諸氏族は、幕屋の南側に沿って宿営することになっていた。

3:30 ケハテ人諸氏族の、一族の長は、ウジエルの子エリツァファンであった。

3:31 彼らの任務は、契約の箱、机、燭台、祭壇、務めに用いる聖所の用具、さらに垂れ幕とそれに関わるすべての奉仕を含んでいた。

3:32 レビ人の長の長は祭司アロンの子エルアザルで、聖所の任務に当たる者たちの監督であった。

3:33 マフリ族とムシ族はメラリに属し、これらがメラリ人諸氏族であった。

3:34 数を数えて登録された者は、一か月以上のすべての男子であり、六千二百人であった。

3:35 メラリ人諸氏族の一族の長は、アビハイルの子ツリエルであった。彼らは幕屋の北側に沿って宿営することになっていた。

3:36 メラリ族の任務は、幕屋の板、その横木、その柱と台座、そのすべての用具、およびそれに関わるすべての奉仕、

3:37 庭の周りの柱とその台座、その杭とそのひもについてであった。

3:38 幕屋の正面、すなわち会見の天幕の前方に当たる東側に宿営するのは、モーセとアロンまたその子らで、イスラエルの子らの任務に代わって、聖所の任務に当たる者たちであった。資格なしにこれに近づく者は殺されなければならない。

3:39 モーセとアロンが【主】の命により氏族ごとに登録した、すべての登録されたレビ人は、一か月以上のすべての男子であり、二万二千人であった。

イスラエル人はエジプトでは奴隷状態で、そのうえ初子は殺されていました。そしてエジプトから脱出する際には、子羊の血によって助けられました。つまりイスラエルにとって初子は、神様によって贖われたのであり、それは神のものということになります。(3章12節)

ここに贖われた者(救われた者)の使命があります。私たちは小羊イエス様の地によって贖われたものです。それは神を礼拝するために、また神の栄光を表わすために奉仕することです。

ここでは一か月以上の者が登録されたので、誰でも可能な奉仕ではありますが、神様の命令に従ってしなくてはなりません。自覚しつつ主の栄光のために、与えられた役割を果たしましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？





3:40 【主】はモーセに言われた。「イスラエルの子らの、一か月以上の男子の長子をすべて登録し、その名を数えよ。

3:41 わたしは【主】である。あなたはイスラエルの子らのうちのすべての長子の代わりとしてレビ人を、またイスラエルの子らの家畜のうちのすべての初子の代わりとしてレビ人の家畜を取り、わたしのものにしなさい。」

3:42 モーセは【主】が彼に命じられたとおりに、イスラエルの子らのうちのすべての長子を登録した。

3:43 その登録による、名を数えられた、一か月以上のすべての男子の長子は、二万二千二百七十三人であった。

3:44 【主】はモーセに告げられた。

3:45 「イスラエルの子らのすべての長子の代わりにレビ人を、また彼らの家畜の代わりにレビ人の家畜を取れ。レビ人はわたしのものではない。わたしは【主】である。

3:46 レビ人の数より多い、二百七十三人のイスラエルの子らの長子の贖いの代金として、

3:47 一人当たり五シェケルを取りなさい。これを、一シェケル二十ゲラの、聖所のシェケルで取らなければならない。

3:48 そしてこの代金を、多い分の者たちの贖いの代金として、アロンとその子らに渡しなさい。」

3:49 モーセは、レビ人によって贖われた者より多い分の者たちから、贖いの代金を取った。

3:50 すなわち、イスラエルの子らの長子から、聖所のシェケルで千三百六十五シェケルの代金を取ったのである。

3:51 モーセは【主】の命により、この贖いの

代金をアロンとその子らに渡した。【主】がモーセに命じられたとおりで

初子というのは、生まれた時点ではまだひとり子です。つまりひとり子を差し出さなさいということですが、これは神のひとり子イエス様が、人間の救いのために差し出されたことと関係があります。出エジプトでの子羊の犠牲も、またレビ人による「初子の代わり」も、イエス様のひな型なのです。

ここで大切なことは、数をきっちりと合わせて代わりとしたことです。イエス様の身代わりは、だいたいこれくらい的人数…として概数であがなったのでなく、1人1人がしっかりと把握されて、大切にされたということです。また、そうであるなら、贖われる人と贖われない人というのは明確に区別されるということです。

すなわち救いには中間点はないのです。愛する人の救いのために、アバウトな考えや適当な期待感ではなく、明確な危機感を持ちつつも主のあわれみに期待しつつ、できる限りのことをしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:1 【主】はモーセとアロンに告げられた。

4:2 「レビ人のうち、ケハテ族の頭数を、その氏族ごと、一族ごとに調べよ。

4:3 それは会見の天幕で任務に当たり、仕事をするのできる三十歳以上五十歳までのすべての者である。

4:4 ケハテ族の会見の天幕での奉仕は、最も聖なるものに関わることで、次のとおりである。

4:5 宿営が出発するときは、アロンとその子らが入って行って、仕切りの垂れ幕を取り降ろし、あかしの箱をそれでおおい、

4:6 その上にじゅごんの皮の覆いを掛け、またその上に真っ青の布を広げ、担ぎ棒を通す。

4:7 また、臨在の机の上に青色の布を広げ、その上に皿、ひしゃく、水差し、注ぎのささげ物のための瓶を載せ、またその上に常供のパンを置く。

4:8 これらのものの上に緋色の撚り糸の布を広げ、じゅごんの皮の覆いでこれをおおい、担ぎ棒を通す。

4:9 青色の布を取って、燭台とともしび皿、芯切りばさみ、芯取り皿、また、燭台のために用いる、油のためのすべての器具をおおい、

4:10 この燭台とそのすべての器具をじゅごんの皮の覆いの中に入れ、これを担ぎ台に載せる。

4:11 また金の祭壇の上に青色の布を広げ、それをじゅごんの皮の覆いでおおい、担ぎ棒を通す。

4:12 聖所で務めに用いる用具をみな取り、青色の布の中に入れ、じゅごんの皮の覆いでそれをおおい、これを担ぎ台に載せ、

4:13 祭壇から灰を除き、紫色の布をその上に広げる。

4:14 その上に、祭壇で用いるすべての用具、すなわち火皿、肉刺し、十能、鉢、これら祭壇のすべての用具を載せ、じゅごんの皮の覆いをその上に広げ、担ぎ棒を通す。

4:15 宿営が移動する際には、アロンとその子らが聖所と聖所のすべての用具をおおい終わってから、その後でケハテ族が入って行って、これらを運ばなければならない。彼らが聖なるものに触れて死ぬことのないようにするためである。これらは、会見の天幕でケハテ族が運ぶ物である。

4:16 祭司アロンの子エルアザルの責任は、ともしび用の油、香りの高い香、常供の穀物のささげ物、注ぎの油についてであり、幕屋全体とその中にあるすべての物、聖所とその用具についての責任である。」

4:17 【主】はモーセとアロンにこう告げられた。

4:18 「あなたがたは、ケハテ人諸氏族の部族をレビ人のうちから絶えさせてはならない。

4:19 あなたがたは彼らに次のようにして、彼らが最も聖なるものに近づくときに、死なずに生きてるようにせよ。アロンとその子らが入って行き、彼らにそれぞれの奉仕と、運ぶ物を指定しなければならない。

4:20 彼らが入って行って、一目でも聖なるものを見て死ぬことのないようにするためである。」

戦力を数えたのが民数記ではありますが、神への奉仕・礼拝をおろそかにしては勝利はありません。この箇所の規定は、目に見える戦果を求めて

のものではないので、守るには霊的理解力と従順が必要でした。それで30歳以上の成熟が必要だったのです。

ケハテ族が携わったものは全て神様の御性質と救いを表わすものですから、それらを扱う奉仕は重要で、まさに献身と従順が必要でした。また高度な役割分担と、自分の役割への分担が必要であり、「死なないため」と言われているように、自らの分を超えない謙遜さが必要でした。教会や実生活でこれらの資質を身に着けますよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

